巻頭の辞

神戸市立病院紀要第54巻をお届けします。紀要には論文だけでなく、市民病院群の学会発表と論文業績も掲載していますが、改めて振り返ると、今年度も実に多くの学術活動が行われたことが分かります。市民病院群は市民の健康の砦であり、地域に密着した高度な診療で市民の期待に応えることが使命ですが、そのなかで学術活動は副次的な仕事なのかというと、決してそうではありません。

実際の臨床において我々は、その時点での医学知識、経験、学会のガイドラインなどに基づいて最善の医療を行うように努力しますが、それだけでは不十分です。医学は常に進歩しており、医療技術も変化します。学術活動を通じて自身が行った医療をチェックし、多くの目から客観的評価を受けて正当性を確かめ、あるいは修正して今後の診療に生かすというサイクルを続けなければ、良質の医療は維持できません。

平成29年度から日本専門医機構主導のもとに新専門医制度が始まり、専攻医に対する教育も根本的に改革されます。今まで各研修施設に任されていた臨床教育についても、新たに具体的な数値基準が示され、一定以上の症例経験が必要になります。地域医療の経験も必ずカリキュラムに入れなければならず、総じて実地臨床重視の方向性が明確です。しかし、一方でリサーチマインドを養うことも奨励され、専攻医への学会発表や論文執筆指導が必須項目として挙げられています。これらは、いずれも神戸市民病院群が以前から実践してきた事ですが、これからは、他の専門研修プログラムとの競争の中から多くの若い専攻医をリクルートしなければならない状況になってきました。市中病院でも、臨床だけでなく学術面においても、より充実した指導が求められる時代になったと言えるでしょう。

本誌の巻頭論文は西市民病院副院長の原田　明先生の「多胎妊娠の問題点とその管理」です。社会の少子化が進む中、「妊娠」は社会的関心事です。この総説で知識を新たにしてください。加えてベトナムでの看護師新人教育に関する報告、および月経随伴性気胸の症例報告があります。このうち、前者の論文は内容的に従来の総説、原著論文、症例報告というカテゴリーには分類が難しいもので、今号から投稿規程に新しく「医療研究報告」というジャンルを創設しました。いろいろな医療活動の総括報告などに活用していただければ幸いです。

神戸市立医療センター中央市民病院
副院長　内　藤　　泰